

令和3年度 環境で地方を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

# 成果報告会 発表資料

## 活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓
昨年度までの“環境整備”を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備”と“支援チーム派遣（事業化支援）”を受けて引き続き事業化に取り組む	

活動団体名：鶴岡市三瀬地区自治会

活動地域：山形県鶴岡市

活動におけるテーマ・キャッチコピー

三瀬（さんぜ）イズム～住むを楽しむコミュニティ～

# 活動団体紹介

## ◎山形県鶴岡市

人口 123,146人(2021年3月末)  
海山川里が全国第10位の広大な  
自治体面積の中に広がる

## ◎鶴岡市三瀬地区

人口 1,297人 (2021年3月末)  
海山川里が半径1 km内にそろそろ。鶴  
岡市のちょうど100分の1!?

## ◎活動地域にある地域資源

豊富な森林資源と紐づく文化  
海山川里と紐づく伝統芸能や建築、生  
活などの文化

日本唯一ユネスコ「食文化創造都市」  
に登録される食文化  
濃密なコミュニティ (自治組織)

三瀬地区HP

<https://sanze.net/>

リアルローカルやまがた

<https://www.reallocal.jp/yamagata>

## ◎現状から考える鶴岡市の課題

人口減少が加速度的 (毎年1500人減)  
域外化石燃料流出額186億円  
自然エネルギーポテンシャル域内使用の12倍以上  
市への民間消費流入26億円 消費の約0.7%と低調

## ◎地域循環共生圏構築を通じて、具体的に解決しようとする課題

森林資源のエネルギー活用による山林適正管理と  
地域内経済循環  
海山川里を生かした自然体験による住民の住み続  
ける理由 (プライド) 再認識と交流人口関係人口  
の獲得

三瀬に見る 地域循環共生圏

三瀬の循環モデル

三瀬の循環共生圏マップ

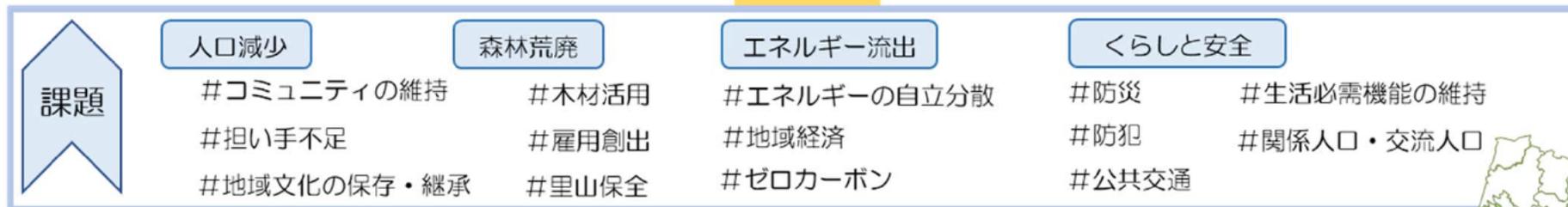
再生可能 エネルギーに 取り組む自治会

鶴岡市三瀬 SANZE, TSURUOKA

# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

地域の資源を活かして  
担い手が活躍する  
持続可能な地域

持続可能な暮らし続けられる地域



## 森林資源活用



まずは自然エネルギーを切り口に地域間交流を。  
持続可能な地域になるため課題解決する協議会を設立。

- 前年度ワークショップを実施したが共通課題の設定が困難
- 都市部の企業「(株)ジャパンリニューアブルエナジー」が、三瀬を含む4地区にまたがる山、八森山に風力発電事業を実施。
- JREと4地区で風力発電と森林資源の活用を共通のテーマで協議会を設立。共通課題を設定しやすい。
- 4地域+JREとの協議を重ね、協議会を年度内立ち上げ予定。

## 自然体験



協議会というよりは課題解決のための会社組織??  
次年度さらに内容を詰め、担い手確保→起業を!!

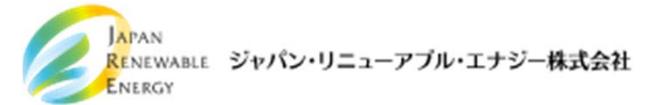
- 新会社の企業に向け、関係各所と調整。
- 資金融資や創業支援のため鶴岡信用金庫様と連携。
- 地域版DMO「DEGAMツーリズムビューロー」と連携し企画したツアーを販売。地元交通機関・旅行会社、庄交トラベルとも連携。
- ツアー内容ブラッシュアップのため、モニターツアーを実施。
- マスコミにも参加してもらい、発信を強化。

# 取り組みを通じた地域プラットフォームの変化

## 都市部風力発電事業との連携強化

□風力発電と密接な関係がある林地の開発について共通の課題として協議会を設立。事業者にも参加してもらい、持続可能な自然エネルギーの活用と地域づくりを協働していく。

□自然体験事業においても、風力発電や森林整備に関連したESDプログラムを開発することで提供できる体験を強化する。



## 金融機関との連携強化

□自然体験事業の事業化に向け、会社の形態や創業計画の確認など助言をいただいている。必要に応じて融資も検討してもらう。

□今後事業化を目指す再生可能エネルギーについても引き続き情報共有し、事業化への協働を行う。



## 観光DMO、旅行会社との連携強化

□自然体験事業のプログラム開発や、各学校ごとにカスタマイズしたプランを協働で販売。今後の体験の担い手のプラットフォーム化や個人旅行対応の窓口としても協働できる。

□プランを販売する際の移動手段（大型バス）等の手配も地元交通機関・旅行会社と連携し手配が可能に。



## 森林資源活用

- 協議会の設立と運営。勉強会等の開催。
- 協議会コアメンバー（4地域）の課題意識統一
- 風力発電事業者との持続可能な関わり方
- 事業化へのアプローチ方法
- 事業化した場合の利用（出口）の確保
- 地域産材加工のハード整備

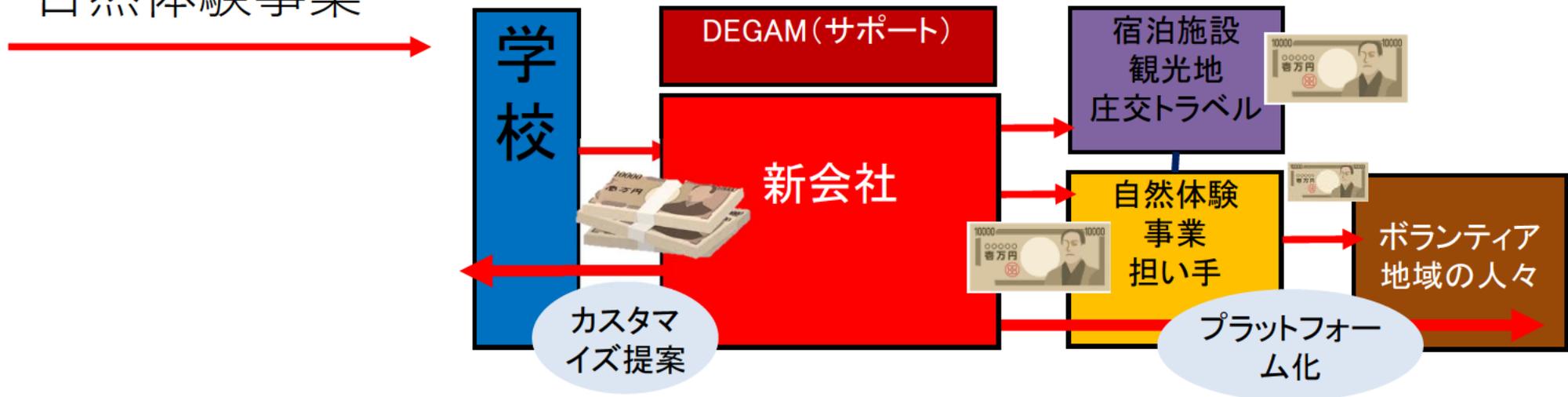
## 自然体験

- ESDプログラムなど新規プログラム開発。
- 学校現場に合ったプログラム開発、カスタマイズ
- 開発した内容や、学校に合わせる形でのコーディネート等、わかりにくい部分のPR方法
- 地域内、県内での教育旅行の営業活動
- 運営会社の運転資金確保
- 個人旅行への対応

# 今後の展望

## 自然体験新会社の教育旅行中心とした安定運営

自然体験事業



## 自然エネルギー地域協議会風力発電関連地域で先行立ち上げ

森林資源活用

協議会のイメージ・・・  
風力発電関連ベースVer

